

資料1

青葉区 MAP (地図)

Aobaku map

青葉区MAP

街路樹

市内1位

15,414本

春は桜のピンクから始まり、追ってハナミズキの白や薄ピンクの花、そして秋にはイチョウの黄色の葉。いつもの道、身近な街路樹からも季節を感じられます。

公園

市内1位
233か所

桜・原っぱ・水景・大きな遊具など、それぞれに特徴があり、子どもだけでなく多世代の憩いの空間となっています。

15歳未満の人口

市内2位
39,908人

平均年齢は44.8歳と市内でも比較的若く、子育て世代が多く暮らしています。子どもを育てやすい環境が整っています。

日本一!!

男性の平均寿命

83.3歳

厚生労働省発表の「平成27年市区町村別生命表」で青葉区の男性の平均寿命が全国1位(全国平均80.8歳)となり女性の平均寿命も全国9位(青葉区88.5歳、全国平均87.0歳)となりました。健康への意識が高い、長寿の街です。

横浜市青葉区へのアクセス

	電車	車
東京から	東京駅	東京IC
	JR 約25分	東名高速 約10分
	渋谷駅	
横浜から	あざみ野駅	横浜青葉IC
	東急田園都市線 約25分	横浜駅
	たまプラーザ駅	横浜駅西口IC
	市営地下鉄ブルーライン 約25分	首都高速 約25分
	あざみ野駅	横浜青葉IC

※所要時間は目安です。

青葉区魅力広報冊子「PhotoBook 青葉の時間」

監修協力 三橋純(横浜美術大学 教授)
横浜美術大学
発行 北元杜果、岸田梨奈、小林莉奈
横浜市青葉区区政推進課

令和3年2月発行



※令和2年3月31日現在

資料2

寺家ふるさと村マップ(地図)

寺家ふるさと村マップ

ふるさと村のルール・マナー

ふるさと村の田やあぜ、畑は農家の人たちの土地です。勝手に入って行って、作物を取ったり、土地を荒らしたりしないでください。また、林のなかも地主さんの土地で、管理をしています。散歩路を外れて勝手に森に入らないようにしましょう。

- ・草花や生物を捕るのはやめましょう。・ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ・路上の駐車はやめましょう。駐車場は「四季の家」横にあります(無料)。
- ・犬は必ずつないで散歩、フンは飼い主が持ち帰りましょう。
- ・タバコのポイ捨てなど、火災の原因になることはやめましょう。



火・コンロは使わない
道からはずれない
ポイ捨てはしない
ボール遊びはしない
静かさを乱さない
生きものを持ち帰らない持ち込まない



ゴミはうちまで
ペットはつないで
フンは家まで

注意



写真提供: 環境科学研究所



「寺家ふるさと村四季の家ガイドマップ」より

資料3

農村風景守り続け(読売新聞)



かながわ街物語

沿線の開発が進む東急田園都市線の青葉台駅から車で約15分。住宅街を抜けると、田園風景が目飛び込んでくる。横浜市が、農業や自然への理解を深めてもらうため、青葉区寺家町に整備した「寺家ふるさと村」。1987年11月の「開村」以来、地元農家の人たちが田畑を体験農業に提供したり、みその手作り教室を開いたりしている。

農村風景守り続け

寺家ふるさと村



刈り入れ後の谷戸田を見渡しながら農業への思いを語る金子豊正

維木林の茂る里山、その間に広がる「谷戸田」と呼ばれる狭い水田、農業用水のため池。約30世帯の農家が、昔ながら変わらぬ暮らしを送っている。広さ約66ヘクタールの寺家町全域が指定された「ふるさと村」では、米作りやみそ造りの体験などを通して、農業への理解を深めてもらおうと、市が設けた案内所や陶芸舎を住民らが運営、管理している。



みそ造り教室でおいしく造るコツを教える持丸正子

の18代目。6人きょうだいの長男だったが、小学校5年の時、徴兵された父がフィリピンで戦死。

残された水田を見て、改めて「こゝろをたたく」。開村時、てがく然とした。「こんな広い田んぼを自分たちだけで」。幼い弟や妹、育てて忙しい母ととも、ほかの農家の手も借りながら、見よう見まねで必死に仕事を覚えた。「家族を支えるため、泣いている暇などなかった」。

そんな苦労をしたから、隣の町に田舎が次々と建っても、先祖から受け継いだ農業を続けたいという思いは変わらない。「自然や農業は私たち

に託して来た」。開村時、地元農家が作った「寺家ふるさと村憲章」には、内所「四季の家」では、神代も農業を営んできた社や里山などの敷設コース、陶芸舎などの施設を案内している。また、案内所内でも、みそ造りやそば打ちの教室などを開いている。訪れる人は年間約30万人に上る。

近くの横浜市立晴志田緑小学校では、毎年、6年生が畑、5年生が水田で体験農業をしている。田畑は農家から借り、総合的な学習の時間を使って1年を通して実習する。昨年度、同校に担任した5年の担任佐藤裕子(54)は、「私にも子供たちにも初めての経験ばかり。こゝろまでできるのは、ふるさと村が近くにあるから」と話す。

手作りの良さを教えたい／苦労して作った米大切に



上から、木村隆一、野中利之、佐藤裕子

「こゝろを捨てたり、野鳥を捕りに来たたりする人もいます」と心配もあり、「農業や自然に親しみながら、大切に育てる気持ちを持ってほしい」と話す。

四季の家の農産加工室で、10年以上、みその造り方を教えている地元農家の持丸正子(64)は、「実は、私も以前はこの教室の生徒だった」と話す。

みそは、たるに結んで1年ほど寝かせるとできあがる。塩分が少なすぎて甘みがあるのが好評で、「キューリにつけて食べたらいちばんおいしいよ」。

1985年の結婚当初は、自宅でみそを造っていたが、数年後、隣家で買えるようになり、造らなくなった。開村後、知人に誘われて教室を受講し、徐々に自分で造ったみそが懐かしくなり、以来、「手作りの良さを人にも教えてあげたい」と講師になった。講師は農家の女性約15人が交代

1945
1950
1960
1970
1980
1987
1990
2000
2006

で務め、教室は10月3月に月5、6回開かれる。「使いつつたから」と、何度も参加する人もいる。

◇ 近くの横浜市立晴志田緑小学校では、毎年、6年生が畑、5年生が水田で体験農業をしている。田畑は農家から借り、総合的な学習の時間を使って1年を通して実習する。昨年度、同校に担任した5年の担任佐藤裕子(54)は、「私にも子供たちにも初めての経験ばかり。こゝろまでできるのは、ふるさと村が近くにあるから」と話す。


今年度の5年生70人は、稲が育って米になるまでの流れを学んだうえで、6月に田植え、10月に収穫を体験した。米は農家に精米してもらい、家庭料理の調理実習で食べる予定だ。「苦労して作った米は、みんな大切に食べるはず」と、授業を楽しみにしている。


◇ 寺家町には、茶道で使う「茶枝の生産会社があり、茶釜師や陶芸家も住むなど、茶道との関係も深い。開村を機に建てられた陶芸舎で、茶わんやつぼなどの制作に取り組んでいるのは、陶芸家の野中利之(44)。「こゝろは自然に囲まれ、創作に没頭するのは農産物の代から陶芸家で、父は横浜マイスターに認定されている青南(72)。祖父が東京・上野で教室を開いていたことから、約40年前、「東京に近い所」と、鞍馬県上野市から引っ越してきた。高校生の時から陶芸を始め、現在は生徒約80人を教えるほどだ。開村後は、「陶芸が得意な村」として、中高生が体験学習に訪れるようになった。


◇ 寺家の陶芸の歴史はまだまだ浅いが、文化としても、根付いてほしいと話す。(敬称略) (向原啓)


資料4

『シン・JAPAN：外国人が次に絶対訪れたいニッポンの新地図帳』（書籍）

 日本を旅すると、季節の移ろいを感じられることに幸せを感じるわ
(シンガポール)

 上高地の自然は日本で最も美しいよ。絶景だ！(フランス)

 日本の田舎は自然豊かで人が少ないからとてもリラックスできる(スロバキア)

 京都の鴨川沿いでぼーっとするのが至福だったよ(アメリカ)

 日本は自然のよさと人の暖かさが好き(イギリス)



長野県松本市上高地を流れる梓川。奥に見える河童橋は、自然との調和を保つその様子から「見るために1時間半歩いたが、その価値がある」(中国)と言われる。

コロナ禍後の興味は「日本食」から「景勝地」に変化

外国人が真っ先に訪れたい日本の“新名所”

水際対策の緩和により、日本に海外旅行客が戻ってきた。世界中の誰もが閉塞感を覚えた時代を経て、自然を求めて日本を旅する。

アフターコロナは景勝地がトレンド

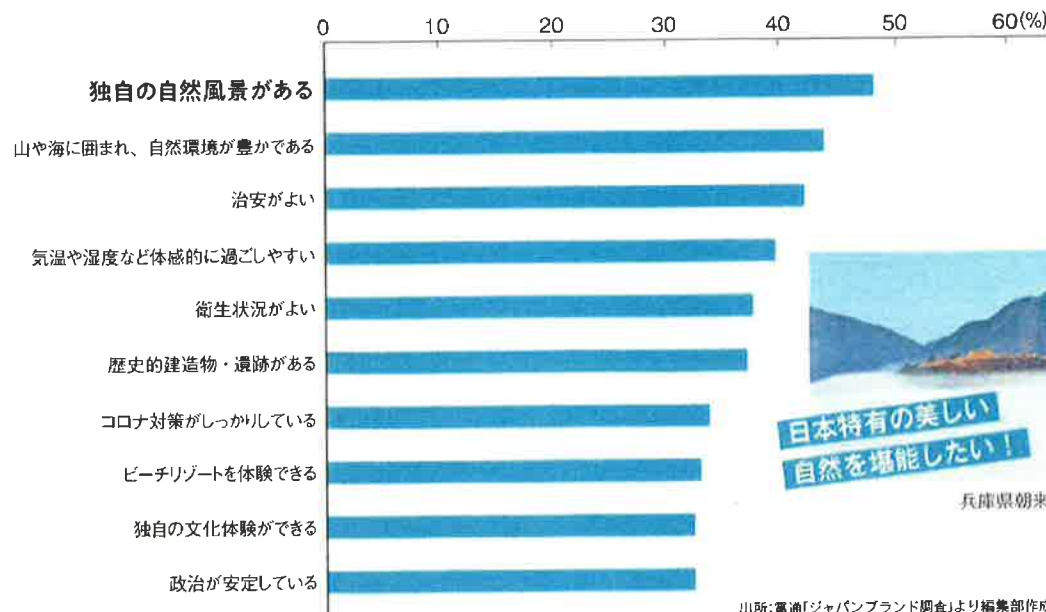
2022年4月、諸外国の感染症危険情報が「レベル2」まで引き下げられ、海外ツアー販売が再開。10月には1日の入国者数の上限撤廃など、段階的な水際対策の緩和によって徐々に海外渡航の障壁が取り除かれ、2022年の訪日観光客数は383万1900人まで回復した。世界中が海外旅行モードを取り戻しつつある現在、アフターコロナの旅行トレンドは「景勝地」だ。コロナ禍による「安心して滞在したい」という気持ちの表れなのだろう。特に欧米から訪れる海外旅行者は「独自

の自然風景がある」「山や海に囲まれ、自然環境が豊かである」といった要素を重要視している。

2022年に電通が海外中高所得者層を対象に行った「ジャパンブランド調査」によると、「行きたい海外旅行先」では「日本」がトップに躍り出た。海に囲まれており、季節の移ろいで変化する自然を楽しむことから、旅行先としての日本の人気が高まっているのだ。

また、閉塞的な生活から解放されて、その反動でより非日常感を味わえる場所へ行きたいという意識から、日本の景勝地を訪れたいというニーズが高まっている。

●海外旅行客が旅行先に求める点



資料5 図解でわかる 14歳から学ぶこれからの観光（書籍）

友だちに日本の案内を頼まれたんだけど
ありきたりの観光ではないものって、ある？

観光名所を巡る従来のツアーとは異なる
地域特有の体験を重視した
新しい旅行「ニューツーリズム」があります。

さまざまなニューツーリズム

テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた新しい形態の旅行をニューツーリズムといいます。

エコツーリズム

自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝え、その価値が理解されることで、自然環境や歴史文化保全につながっていくことを目指しています。



グリーンツーリズム

農村、山村、漁村に滞在しながら自然や文化の体験を楽しみ、地域の人びとと交流するものです。長期休暇の習慣があるヨーロッパの国々で定着しているグリーンツーリズムを、農林水産省が積極的に取り入れています。



インフラとは、道路、港湾、河川、ダム、上下水道、鉄道、トンネル、通信施設などの生活の基盤になる施設のことで、こういった施設を訪れて見学することをいいます。

インフラツーリズム

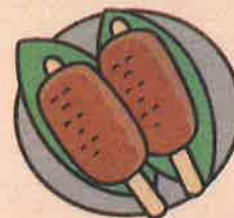
健康回復や健康の保持と増進を目的として、自然豊かな場所に滞在し温泉に入ったり、からだに優しい料理を味わったりするものです。病気の人だけでなく、都会の生活を離れて自然の中でくつろぎたい人や、美容や体力増強を目的とした人にも広がっています。

ヘルスツーリズム



フードツーリズム

地域ならではの食や食文化をその地域で楽しむことを目的とした旅。地域ならではの場所や人が関わる様々な体験によって、目的である食や食文化の価値をさらに高めることができます。



アニメツーリズム

アニメや漫画の作品の舞台となった土地や建物などを訪れる旅行のことで、別名「聖地巡礼」とも呼ばれています。



スポーツを観戦したり、大会参加や合宿などスポーツを自ら体験したり、大会のボランティアやマネージメントをしてスポーツを支えたりする一連の取り組みのことで。

スポーツツーリズム

他にも、産業観光、文化観光、宙ツーリズム、ロケツーリズム、ダークツーリズム、宗教ツーリズムなど、さまざまなニューツーリズムがあるんだよ！



1990年代ごろまで、旅をするには団体旅行が主流でしたが、旅が個人化し、旅行者のニーズが多様化したことから、地域特有の体験を重視した新しい旅行、ニューツーリズムが注目されるようになりました。

ニューツーリズムでは、旅行者は訪れる地域の自然や文化などのテーマに沿った体験をすることで、より満足度の高い時間を過ごすことができます。一方、地域は、土地ならではの資源

や文化を^{まも}り育てる取り組みを行うことで旅行者が増え、地域を活性化することができます。

ニューツーリズムは多種多様です。まずは友だちの好きな分野で調べてみるとよいでしょう。また、自分が住む地域でニューツーリズムの資源となるものを探してみましょう。農業や漁業、歴史文化、自然など、地域特有の体験で、交流をあたためる旅を企画してみるのも面白いでしょう。

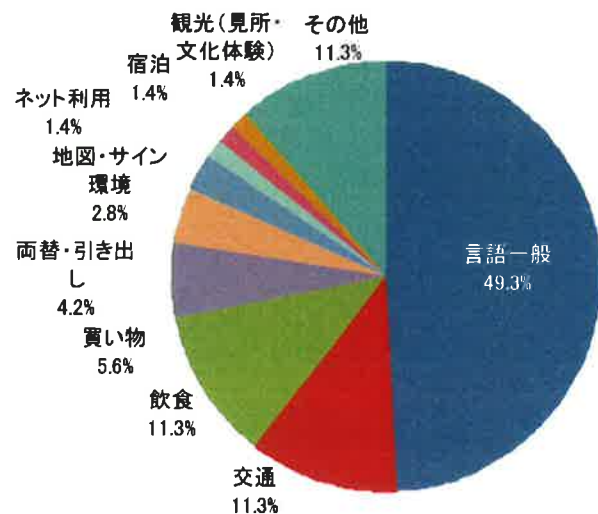
資料6

外国人観光客に対する課題(WEB)

外国人観光客からみた“困りごと”

- ・都市部と地方部で、フリーWi-Fiの利便性に差がある
- ・WEBサービスを充実させてほしい
- ・公共交通機関を利用しやすくしてほしい
- ・観光案内版、地図などをいろいろな言語で表示してほしい
- ・ピクトグラムやサインを増やしてほしい
- ・キャッシュレス決済を充実させてほしい
- ・外国のカードから現金を引き出せるATMを増やしてほしい
- ・飲食店情報の入手や予約をしやすくしてほしい
- ・お店やホテルなどでの英語情報が不足。レストランの英語メニューを増やしてほしい
- ・観光情報(見所・文化体験)やチケットの入手をしやすくしてほしい
- ・いろいろな言語に対応できるツアーガイドなどを配置してほしい
- ・宿泊施設の情報の入手や予約をしやすくしてほしい
- ・コインロッカーを小さい規模の駅にも置いてほしい
- ・ゴミ箱を増やしてほしい

■コミュニケーションに困った場所・場面



国土交通省観光庁「外国人観光案内所を訪問した外国人旅行者アンケート調査結果概要」より

観光地が“困っていること”

【地域で発生している課題の事例】

「国土交通省観光庁」資料参照

<<マナーに対する考え方や価値観の違いが、観光地域の住民の日常生活へ支障>>

- ・多くの観光客が押し寄せることによるゴミの問題
- ・通勤・通学時間の電車やバスの混雑
- ・電車やバスへの大型手荷物の持ち込みによる円滑な運行への支障
- ・住民のプライバシー侵害：民泊周辺では夜中まで騒ぐ外国人観光客や民泊と間違えて敷地内に入ってきた外国人に起こされたというケースも多発
- ・コロナ禍で観光が制限され、ホテルやタクシー会社の人員が減らされたことによる人手不足
- ・Wi-Fiなど無線LANの設置
- ・文化財の破損
- ・開発による景観の破壊
- ・多言語化への対応、コミュニケーション

地域において発生している課題の事例

国土交通省

北海道美瑛町



<マナー違反>

○美しい風景の写真を撮るために農地(私有地)への立ち入りが多数発生。

<混雑>

○観光客の車両が集中することで交通渋滞が発生。また、生活道路や農道への違法駐車により、生活交通が妨げられている。

神奈川県鎌倉市



<混雑>

○鎌倉駅周辺等で多客期において観光客による混雑が発生。

<マナー違反>

○人気アニメの影響で有名な踏切周辺において、写真撮影のため多くの観光客が公道に滞留。
○観光客によるごみの投棄等も問題となっている。

京都府京都市



<混雑>

○主要観光地へ向かうバスが増便されているものの、これを上回る乗客によりバスターミナルや車内が混雑。また、大型手荷物の持ち込みにより、円滑な運行に支障。

<マナー違反>

○芸舞妓を無断で写真撮影したり、車道まで広がっての歩行、私有地への無断立ち入り等の事例も発生。